

令和6年度 第1回池田市総合教育会議 議事録

日 時：令和6年9月20日（金）午後3時00分～午後4時00分

会 場：池田市役所 3階 議会会議室

出席者：瀧澤市長、田渕教育長、小林委員、木村委員、辻村委員、尾松委員

＜一般財団法人LINEみらい財団＞

西尾氏、高野氏、鈴木氏

＜事務局＞

10人（教育委員会）

傍聴者：0人

1. 開会

＜市長＞

- ・みなさま大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・本日は令和6年度第1回目の総合教育会議である。前回は令和6年2月に開催したので、約半年ぶりの開催となる。
- ・本市では、昨年度から第7次となる池田市総合計画がスタートしたことを受けて、今年4月に教育行政の拠り所となる「池田市教育大綱」を改定するとともに、具体的な各施策の方向性を示す「第2次池田市教育振興基本計画」を策定いただいた。これら大綱や計画に基づき、今後とも市と教育委員会の緊密な連携のもと、時代やニーズに応じた取組を進めてまいりたい。
- ・本日の総合教育会議では、案件として「情報モラル教育について」を予定している。高度な情報化社会を生き抜くためには「自ら考え判断する力」を育む情報モラル教育の充実が欠かせないものと考えている。
- ・本日は、一般財団法人LINEみらい財団から西尾様、高野様、鈴木様にお越しいただいている。情報モラル教育について、教育センターと一般財団法人LINEみらい財団様からご説明いただいた後、みなさまとご意見交換をさせていただきたい。
- ・限られた時間ではあるが、みなさまには忌憚のないご意見をいただくようお願い申し上げます、開会のご挨拶とさせていただきます。

2. 議事

（1）情報モラル教育について

教育センターから資料1に基づき説明した後、一般財団法人LINEみらい財団から資料2に基づき説明。

<市長>

議題についてみなさまのご意見をお聞きしたい。

<木村委員>

- ・現代の情報化社会においては、情報モラル教育は欠かせないものであり、大人も子どもも学び続ける必要がある。これまでは、子どもが信頼できる大人に相談することで足りると考えていたが、誰もが簡単に情報を発信・アクセスできるようになった現代では、大人自身も相談したいと思う場面が増えている。子どもたちだけでなく教職員も相談できるようなプラットフォームの必要性を感じる。
- ・一般財団法人LINEみらい財団への質問であるが、子どもに対する学校での授業や教材の提供だけでなく、大人への情報モラル教育の現状を伺いたい。
- ・また、インターネット上で起こることには教職員の目が届きにくく、次々にマニュアルにない新しい問題が起こるため、子どもたち一人ひとりの対応力を養う必要がある。説明中にあった、カードを用い、自身と相手の考えの違いを可視化することができる教材は、面白くわかりやすい内容で、子どもたちの創造力や判断力を向上させられると感じた。

<市長>

- ・今後、子どもたちだけでなく保護者や教職員も含めたリテラシー向上やスキルアップがより重要になるものと思料。これらの取組事例などがあればご紹介、助言いただきたい。

<西尾氏>

- ・当財団としては、第一に子どもたちの成長をサポートすることを目的としているが、各学校にてその成長を支える教職員に対する研修や子どもたちと保護者向けにも教材の作成や全国での講演を行っている。デジタルデバイドについては、高齢者を対象にスマートフォンの楽しく安全な使い方を各自治体が講演する教材を提供している。

<尾松委員>

- ・情報モラルの問題の一つとして、アプリやWEBサービスで飲食店など他者が個人が評価する機会が増え、悪い評価がエスカレートすると悪口・誹謗中傷になることを大人も子どもも注意しなければならない。また、内容の良し悪しに関わらず、注目を集めることを良しとする風潮に違和感がある。インターネット上にあふれる情報が正しいものか判断するために、自らさらに調べて確実

性を持たせることは大人でも難しいが、幼少期から癖づけられるよう教えることが重要だと感じる。

<市長>

- ・特に匿名での投稿や直接知らない人に対する投稿は攻撃性が高まる傾向にあり、全国でもSNSでのいじめ事案が起きている。教職員の目が届きづらいため、教育現場や市としても対策方法に苦慮しているところ。

<西尾氏>

- ・SNSでは、誹謗中傷やデマ、フェイクニュースを含む情報にも安易に届くため、正しい情報を読み解く能力の高さが非常に重要である。現在、当団体でも誹謗中傷には焦点を当てて研究しているところ。ほかにも、近年は災害時のデマが増加しており、正しい情報を選択する能力は自分や周囲を守ることにつながる。情報化社会の課題の特徴として、複数の課題が絡み合っていることが挙げられ、情報を見抜く力を成長段階に応じて何度も養う必要がある。

<辻村委員>

- ・一般財団法人LINEみらい財団への質問であるが、各年代でどのような課題が注目されており、それに対してどのような教材を提供されているのか。
- ・現代においては、病的な依存も大きな課題となっており、教材や授業でどこまで踏み込んでおられるのか。

<西尾氏>

- ・小学校から高校まで出張授業をさせていただく中で、小学校低学年の子どもたちは、写真に関連するトラブルが多いが、全ての年代で課題として挙げられるのは、コミュニケーショントラブルと長時間利用である。長時間利用という一つの課題においても、中学生以上に対しては、勉強時間確保の観点でタイムマネジメントに焦点を当てた内容を取り入れ、小学生に対しては、気づかないうちに時間が経過することのないような有意義な時間の使い方を中心に扱うなど、年代に応じて教材の内容を変えている。
- ・病的な依存については、現状では子どもたち向けの教材では踏み込んでおらず、保護者と話し合い適切な時間の使い方を心掛けるよう伝えている。一方、病的な依存については、大学と調査研究を進めており、病的な依存とされる範囲の検討やその範囲を超えた際、前段のタイムマネジメントに関する教育だけでは補えない、さらなる教育方法を研究している。

<辻村委員>

- ・情報モラル教育に留まらない、今後の情報化社会での生き方そのものに役立つような、わかりやすく、ポジティブな授業をしていると感じた。コミュニケーショントラブルについて、授業でも道徳的な観点からも踏み込んでいるのか。幼少期はボキャブラリーや相手の感情を読み取る想像力が足りないことがあり、この時期から多くの情報を得て、発信できる機器の適切な使用方法の伝え方は、教育現場の大きな課題である。
- ・受け身の取り方も重要なスキルであると考える。本人が気を付けていても、正面から攻撃的な言葉を受け止めてしまうと、絶望し、孤独に感じてしまうこともあるが、このような場面での対処法も教材や授業の中で教えているのか。

<西尾氏>

- ・辻村委員ご発言のとおり、コミュニケーショントラブルは、各自のスキル以前に道徳的な要素が強い。1対1のコミュニケーションにとどまらず対複数、対傍観者など他者の捉え方を考慮する必要がある。インターネット上では、相手が嫌がる気持ちに気づかないまま会話が進むことがあり、その特徴にワークを通して気づくことで、想像力をはぐくむよう授業や教材をつくっている。
- ・受け身の取り方については、1つの対処法で解決しがたい課題である。攻撃性の強さや相手との関係性、悪意の有無によって異なるが、まずは誹謗中傷の存在を知る必要があると考える。さらに攻撃性の強い内容などは、犯罪の境界線や判断ができないときの相談先などの知識を得られるような教材を作成している。

<小林委員>

- ・情報モラルと言論の自由の関係については、SNSを管理する各社で取り扱いに揺れているように感じるが実際の状況を伺いたい。
- ・時代に沿った情報モラルの高度化は非常に重要な観点である。技術的な要因と関連の深い情報モラル教育において、匿名性や不確定情報の拡散など新たな視点が必要となっている。
- ・日々発達する生成AIについては、情報のソースが不明であり、正確性の判断が難しい。道徳的なモラルと技術的な進歩に伴い発生する新たな課題の両面において、教育を進める必要がある。
- ・日本でも研究論文の盗用や捏造は少なくなく、道徳的な人間性の観点からも教育が必要である。また、メールの誤送信や機密情報の漏洩など意図せず起こるリスクや相談場所の明確化にも注力して教育いただきたい。

<西尾氏>

- ・SNSに関する事項については、SNSを管理する各社で密接に連携しており、SMAJ（一般社団法人ソーシャルメディア利用環境整備機構）という協議会を設置している。しかし、協議会の中でも、LINEのようにユーザー同士の会話を見られないクローズSNSか、Xのように誰でも覗くことのできるSNSかによっても、電子通信事業法の兼ね合いが異なる。
- ・生成AIについては、急速に成長する中で、情報の正確性を判断するだけでなく、AIへの質問力も今後重要となると考える。生活に浸透するにつれて、技術を使用する側も課題意識を持ち続けなければならない。情報を取り扱う会社だけでなく、自治体からの意見も踏まえ、日々新しい検討が必要となる。

<教育長>

- ・本市でも情報モラル教育は、中学生向けから始めて10年になる。中学校長を務めていた時、子どもたちと保護者へ情報化社会のリスクについて講演する機会があったが、過度に心配を与えるものだったのではないかと振り返る。スマートフォンの場合、保護者が買い与えており、学校は注意喚起を行うのみであった。しかし、1人1台のGIGAスクール端末を配布した現在、同端末を用いた活動については、教育委員会の責任が大きいと思料。情報活用能力の向上とリスク管理は同時に進める必要があり、使用することのこまめな情報モラル教育が必要である。引き続きGIGAワークブックいけだにおける取組も含め、連携させていただきたい。
- ・情報モラル教育を通じて、子どもたちの豊かな心を育てたい思いがある。スキルだけでなく、痛みを持つ人の気持ちを理解できる心をはぐくむための教育を進めたい。
- ・教職員などによる教育だけでなく、子どもたちの主体的な取組を進めたい。子どもたちが自ら考え、発信するような取組が必要であると思料。

<市長>

- ・デジタル技術の発展に伴い、自宅や学校でデジタル機器を当然のように使用するようになった。学校で使用する際は、制限もあり、子どもたちにとっても学習を目的として使用すると認識できているが、家庭では制限が難しく、悩まれている保護者も多いと思料。教育長ご発言のように子どもたちが自ら考え、発信することで大人が学ぶこともあると考える。
- ・非常に考えさせられるテーマで議論ができた。最前線の経験から貴重なご意見をいただき感謝申し上げます。

3. 閉会